

日時

平成30年

7月29日 日

13:30 ~ 16:45 (13:00 開場)

会場

東北大学川内南キャンパス
文科系総合講義棟2階 法学部第1講義室

(地下鉄東西線川内駅「南2出口」より徒歩7分 ※川内キャンパス構内に接続しています)

プログラム

13:30 開会挨拶

開催校挨拶

大野英男 (東北大学総長)

日本学術会議東北地区会議代表幹事挨拶

厨川常元 (東北地区会議代表幹事、東北大学大学院医工学研究科研究科長)

日本学術会議第一部部長挨拶

佐藤岩夫 (日本学術会議第一部部長、東京大学社会科学研究所所長)

14:00 報告1

「ひとつの復興、いくつもの復興——社会学からの
アジェンダ設定に向けて」

吉原直樹 (日本学術会議連携会員、横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授)

14:30 報告2

「『ふるさとの歴史』を救う意味——心理社会的支援
としての歴史資料保全の可能性——」

佐藤大介 (東北大学災害科学国際研究所准教授)

15:00 報告3

「復旧・復興のプロセスから見た今後の課題——現場の
視点から」

奥山恵美子 (前仙台市長)

15:45 総合討論

【司会】佐藤嘉倫 (日本学術会議第一部会員、東北大学大学院文学研究科副研究科長)

【討論者】吉原直樹、佐藤大介、奥山恵美子、町村敬志 (日本学術会議第一部幹事、
一橋大学大学院社会学研究科教授)、島田明夫 (東北大学公共政策大学院・法学研究科、
災害科学国際研究所教授)

16:45 閉会挨拶

三成美保 (日本学術会議副会長・第一部会員、奈良女子大学副学長)



申込フォーム



日本学術会議

第一部夏季部会

公開シンポジウム

東日本大震災後の
10年を見据えて

東日本大震災が発生してから七年が経過しました。その間、日本学術会議は復興・復旧のための提言や報告を行ってきました。本シンポジウムでは、報告「多様で持続可能な復興を実現するために——政策課題と社会学の果たすべき役割——」を取りまとめた吉原直樹氏、被災地の大学である東北大学で歴史資料保存の持つ社会的意義を探究している佐藤大介氏、被災地仙台の市長として復興・復旧に取り組んできた奥山恵美子氏を報告者としてお迎えし、日本学術会議、被災地の研究者コミュニティ、被災地自治体の有機的な連携の可能性を探ります。

○主催：日本学術会議第一部 | 東北地区会議 | 国立大学法人東北大学

○共催：文学研究科 | 法学研究科 | 東北アジア研究センター | 災害科学国際研究所 | 東北大学
「社会にインパクトある研究 人類社会の将来のための新たな理念の法学・政治学的定立」

○後援：大学共同利用機関法人、人間文化研究機構

○問合せ：東北大学研究推進部研究推進課 TEL.022-217-4840 kenkyo@grp.tohoku.ac.jp

入場無料

参加申込：当日受付も可能ですが、参加人数把握のため URL または QRコードより事前申込をお願いします。

<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kenkyo/gakujyutsukaigi/form1.html>